

タイトル：手外科領域における低侵襲治療の取り組み

西奈良中央病院
整形外科・手外科センター
鈴木 大介

手外科領域において、その診療はデバイスの進化とともに変遷しています。

中でも顕微鏡・関節鏡・エコーの臨床応用が与えたインパクトは大きく、疾患によっては治療方法そのものが大きく変化しました。

当院では関節鏡とエコーを駆使し、できるだけ小侵襲で、できるだけ早期に社会復帰が可能となる治療を目指しています。

本講演では下記の手外科 common diseases について最近の話題を中心に解説します。またそれぞれについて、我々の行っている低侵襲治療の取り組みを報告します。

一部マニアックな内容も含まれますが、先生方の臨床の一助となれば幸いです。

① 腱鞘炎（ばね指）：

保存治療としてのジクトルテープの効果

腱鞘内注射はどこから打つか？

エコーガイド下腱鞘切開

② 手根管症候群：One portal ECTR

③ 手関節ガングリオン：関節鏡とエコーを用いた最小侵襲手術

④ 橈骨遠位端骨折：関節鏡による関節面の整復と SL 靭帯損傷に対する thermal shrinkage

⑤ TFCC 損傷：関節鏡下縫合術

⑥ キーンベック病：関節鏡下月状骨切除術

⑦ 舟状骨骨折：関節鏡を用いた自家骨移植

⑧ 母指 CM 関節症：関節鏡と suture button を用いた関節形成手術(suspensionplasty)

⑨ ヘバーデン結節：関節固定は必要か？滑膜切除が除痛と粘液嚢腫消失に与える効果